

## 進捗状況の概要

### 1 組織体制の整備

岩手大学内に COC 推進室を設置し、12 月 1 日付けで COC+推進コーディネーターを雇用するとともに 事務職員 1 名を配置し、体制の整備に着手した。インターンシップ及び起業家人材を担当するスタッフについては公募採用することとし、3 月に起業家人材担当教員が着任した。岩手県立大学においても 11 月から順次スタッフを雇用し、12 月に地域創造会議、COC+推進委員会及び COC+推進室を設置して体制を整えた。

2 月 17 日に事業協働機関 33 機関が参加した「ふるさといわて創造協議会」を立ち上げ、運営委員会を設置するとともに、その下に「ふるさといわて創造部会」、「教育プログラム開発部会」を設けた。

### 2 いわて創造人材の育成に向けた取り組み

岩手大学では「地域」に関する科目の体系的配置を進めたほか、COC 事業と連携して PBL 教育の FD 研修を全 4 コースで実施した。

岩手県立大学では平成 28 年度に開設する副専攻「いわて創造教育プログラム」及び当該プログラムを構成する「いわて創造入門」「いわて創造学習」をはじめとした新規地域志向科目について授業計画の作成等の開講準備を行ったほか、学内公募の 4 団体が 地域創造 IPU-e プロジェクトを実施し、2 月 15 日に報告会を開催した。このうち地元企業とのコラボレーションにより新商品の企画を行った 1 団体については、社会人基礎力育成グランプリ北海道・東北大会に出場し活動を報告した。

一関工業高等専門学校及び富士大学では、各 28 年度新規開設科目「地域創造学」、並びに「地域創生論」「地域金融論」「起業家育成とファイナンス」の開設準備を進めた。

### 3 地域定着に向けた取り組み

岩手県内参加大学などのインターンシップの取り組み状況を調査し、共通化や拡充に向けた検討を実施した。また、NPO 法人が主催する「IWATE 実践型インターンシップ」を平成 28 年度から本事業と連携して実施し、域外の学生を岩手に呼び込むため首都圏の協力大学を訪問し参加学生を募るなど、多様な形態によるインターンシップの展開に向けた各種の準備を実施した。

岩手県中小企業団体中央会は「地元企業を知ろう！業界研究プロジェクト」、「いわて中小企業合同就職説明会」を実施するとともに、事業開始前に実施した「若者向け地元企業を知ろう！プロジェクト」、「いわてキラリ企業ガイドブックの作成」などの次年度の実施に向けて大学側と調整を行った。

### 4 雇用創出に向けた取り組み

岩手県からの委託事業として学生のアントレプレナーシップの形成を図る「ふるさといわて起業家人材育成道場」事業を 28 年度から実施することとし、28 年 10 月からの実施に向けて事前準備を開始した。

### 5 NPO 等との連携調査

「いわて創造人材」や「起業家人材」が地域に入って多様なインターンシップ活動を推進するための連携体となり得る NPO や企業との連携可能性を探るため、「NPO 等外部連携可能性調査」を委託実施した。

### 6 広報活動

3 月 7 日に COC+キックオフフォーラム「ホンネを語る場～学生のホンネを知って地元採用につなげよう～」を開催し、この結果を地元新聞社との連携により 3 月 27 日の地元紙朝刊に見開き 1 面に掲載した。HP による周知として、岩手大学では COC 及び地域連携推進機構の HP を活用して取組状況を紹介したほか、岩手県立大学では専用の HP を開設して周知を図った。また、岩手大学でプロジェクト全体のパンフレットを、岩手県立大学では COC 認定校としての取組を紹介するパンフレット作成し配布した。そのほか、事業協働機関構成員に COC+の取組を紹介する ニュースレターを作成・配布した。1 号はプロジェクトの立ち上げ、2 号はキックオフフォーラムの内容とした。

(COC+大学名：岩手大学、事業名：ふるさといわて創造プロジェクト )